

平成24年

火災・救急活動の概要

高槻市消防本部

1 火 災

(1) 火災件数と出火率

☆ 火災は31件の増加

平成24年中に高槻市内で発生した火災は120件で、前年の89件と比べ31件の増加となった。

出火率（人口1万人当たりの出火件数）は3.4で、全国平均（平成23年中）3.9と比べ0.5ポイント低い。

(2) 火災種別

☆ その他の火災が半数以上

平成24年中の火災件数のうちその他の火災が62件で、全火災の半数以上を占めている。建物火災は43件で、そのうち住宅関係の火災が29件であった。

建物火災	43件（35.8%）
林野火災	5件（4.2%）
車両火災	10件（8.3%）
その他の火災	62件（51.7%）

(3) 焼損面積

☆ 焼損面積は増加

建物火災は43件で前年の50件を下回ったが、焼損床面積は1,460平方メートルで、前年の1,144平方メートルに比べ316平方メートルの増加となった。

焼損表面積は46平方メートルで、前年の281平方メートルに比べ235平方メートル減少している。

(4) 損害額

☆ 損害額は大幅に増加

平成24年中の損害額は1億9,245万円で、前年の9,603万8千円から比較すると9,641万2千円の増加となった。

1件当たりの損害額は160万4千円で、前年の107万9千円より52万5千円の増加である。

(5) 火災による死傷者

☆ 死者、負傷者は同数。

平成24年中の火災による死者は2人、負傷者は20人で、前年と同数となった。

また、負傷者20人のうち、重症者が1人(前年2人)、中等症者が1人(前年3人)、軽症者18人(前年15人)である。

(6) 原因別に見た火災発生状況

☆ 24年連続1位に放火（疑いを含む）

ア 平成24年中の全火災（120件）を出火原因別にみると以下のとおりである。

※ 件数割合の%は小数第2位を四捨五入

放火（疑い37件を含む）	45件（37.5%）
たばこ	18件（15.0%）
火あそび	9件（7.5%）
こんろ（天ぷら油の過熱等）	8件（6.7%）
たき火	4件（3.3%）

排気管	2件 (1. 7%)
溶断機・切断機	2件 (1. 7%)
電灯・電話等の配線	1件 (0. 8%)
配線器具	1件 (0. 8%)
風呂かまど	1件 (0. 8%)
灯火	1件 (0. 8%)
電気機器	1件 (0. 8%)
マッチ・ライター	1件 (0. 8%)
衝突の火花	1件 (0. 8%)
不明・調査中	3件 (2. 5%)
その他	22件 (18. 3%)

イ 建物火災 (43件) を原因別にみると以下のとおりである。

※ 件数割合の%は小数第2位を四捨五入

こんろ (天ぷら油の過熱等)	8件 (18. 6%)
放火 (疑い3件を含む)	7件 (16. 3%)
たばこ	5件 (11. 6%)
電灯・電話等の配線	1件 (2. 3%)
配線器具	1件 (2. 3%)
火あそび	1件 (2. 3%)
たき火	1件 (2. 3%)
灯火	1件 (2. 3%)
電気機器	1件 (2. 3%)
溶接機・切断機	1件 (2. 3%)
風呂かまど	1件 (2. 3%)
不明	3件 (7. 0%)
その他	12件 (27. 9%)

(7) まとめ

☆ 地域住民等に対して防火意識の高揚を図り、より一層の火災予防に取り組む必要がある。

平成24年中の火災は、120件で前年の89件に比べ31件増加している。

火災種別でみると建物火災が43件で前年より7件減少したが、工場火災の焼損床面積や損害額が前年より増加している。

火災による死者は2人、負傷者は20人で前年と同数であるが、死者2人はいずれも共同住宅の火災での犠牲者である。

出火原因では、「放火 (放火の疑い含む)」が1位で45件、「たばこ」18件、「火あそび」9件と続いている。特に1位の「放火 (放火の疑い含む)」については、過去24年連続1位を占めている。

今後も、放火犯罪撲滅のため警察との連携、協力体制の強化を行うとともに、各自治会住民一人ひとりが日頃から建物周辺に可燃物等燃えやすいものを放置しない、放置させない地域環境と地域内での監視体制の強化等「放火されない環境づくり」を進める。また、防火講演、消防訓練等を通じて積極的に推進し、あわせて住宅用火災警報器の設置推進を図り、さらなる防火意識の高揚を図る必要がある。

火災概要（対前年比）

区 分		単位	平成24年 (A)	平成23年 (B)	増減(C) (A)-(B)	増減率(%) (C)/(B)×100	
出火件数			120	89	31	34.8	
建物火災		件	43	50	△7	△14	
林野火災			5	3	2	66.7	
車両火災			10	12	△2	△16.7	
その他の火災			62	24	38	158.3	
焼損棟数				49	70	△21	△30
全 焼		棟	3	9	△6	△66.7	
半 焼			0	3	△3	△100	
部分焼			8	17	△9	△52.9	
ぼ や			38	41	△3	△7.3	
焼 損 面 積	建 物	床面積	m ²	1,460	1,144	316	27.6
		表面積	m ²	46	281	△235	△83.6
		林 野	a	10	13	△3	△23.1
死者		人	2	2	0	0	
負傷者		人	20	20	0	0	
り災世帯			42	51	△9	△17.6	
全 損		世帯	14	8	6	75	
半 損			3	8	△5	△62.5	
小 損			25	35	△10	△28.6	
り災人員		人	93	128	△35	△27.3	
損害額			192,450	96,038	96,412	100.4	
建物		千円	172,842	90,506	82,336	91.0	
林野			0	0	0	0	
車両			15,113	5,087	10,026	197.1	
その他			4,495	445	4,050	910.1	
出火率			件	3.4	2.5	0.9	36
年	平成24年			平成23年			
主な火災原因	1	放火（疑い含む）	45件	1	放火（疑い含む）	26件	
	2	たばこ	18件	2	こんろ	13件	
	3	火あそび	9件	3	たばこ	10件	
	4	こんろ	8件	4	火あそび	5件	
	5	たき火	4件	5	電灯・電話等の配線	4件	
				5	たき火	4件	

（※損害額については確定数値ではありません。）

過去5年間の火災状況

区分		年別	20年	21年	22年	23年	24年
火災件数			116	103	101	89	120
内 訳	建 物		70	53	50	50	43
	林 野		1	3	3	3	5
	車 両		7	7	10	12	10
	その他		38	40	38	24	62
	爆発（再掲）						
焼損棟数（棟）			78	65	77	70	49
内 訳	全 焼		4	4	9	9	3
	半 焼		3	1	2	3	0
	部分焼		11	17	14	17	8
	ぼ や		60	43	52	41	38
焼損面積	建 物	床面積（㎡）	568	581	1,407	1,144	1,460
		表面積（㎡）	143	148	197	281	46
	林 野（a）	10	31	2	13	10	
り災世帯（世帯）			59	54	78	51	42
内 訳	全 損		8	8	13	8	14
	半 損		2	5	13	8	3
	小 損		49	41	52	35	25
り災人員（人）			141	124	196	128	93
損 害 額（千円）			40,983	70,355	222,002	96,038	192,450
内 訳	建 物		39,700	59,963	217,382	90,506	172,842
	林 野		0	0	0	0	0
	車 両		1,138	9,132	2,060	5,087	15,113
	その他		145	1,260	2,560	445	4,495
死 者	48時間（人）		2	0	6	2	2
	30日（人）		0	0	0	0	0
負 傷 者（人）			21	21	25	20	20
覚 知 別 件 数			116	103	101	89	120
内 訳	火災報知専用電話（119）		68	57	56	58	67
	加 入 電 話		4	3	1	3	2
	警 察 電 話		6	10	2	3	11
	事 後 聞 知		34	33	38	23	36
	そ の 他		4	0	4	2	4

2 救 急

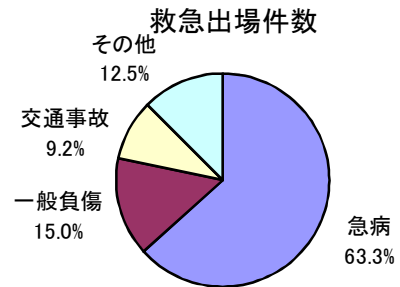
(1) 救急出場件数

◎ 出場件数は増加

平成24年中の救急出場件数は18,149件で前年17,169件に比べ980件(5.7%)増加した。また、1日平均にすると約50件、約29分に1回の割合で出場したことになる。

出場件数を事故種別毎にみると、第1位が急病で11,488件(63.3%)、第2位が一般負傷2,721件(15.0%)、第3位が交通事故1,668件(9.2%)の順となっている。(右図参照)

そのうち、特別救急隊の出場件数は417件であった。



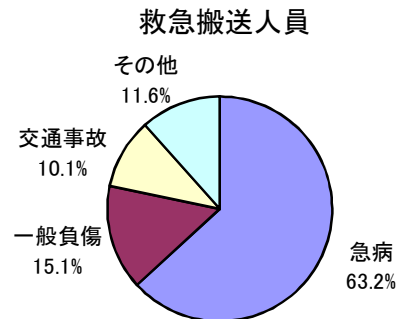
(2) 救急搬送人員

◎ 搬送人員は増加

平成24年中の搬送人員は16,374人で、前年15,510人に比べ864人(5.6%)増加した。

また、1日平均約45人、市民の約22人に1人が救急車で医療機関へ搬送されたことになる。

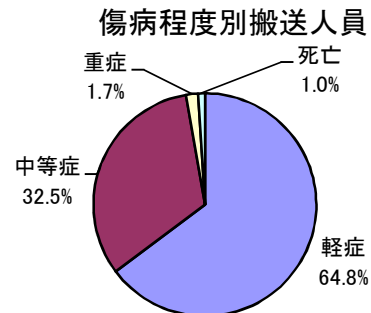
搬送人員を事故種別毎にみると、第1位が急病で10,345人(63.2%)、第2位が一般負傷2,472人(15.1%)、第3位が交通事故1,660人(10.1%)の順となっている。(右図参照)



(3) 傷病程度別搬送人員

◎ 軽症患者は10,603人

平成24年中の搬送人員16,374人を傷病程度別にみると、軽症(傷病の程度が入院加療を要しない)が10,603人(64.8%)で最も多く、次いで中等症(傷病の程度が重症又は軽症以外のもの)が5,323人(32.5%)、重症(傷病の程度が3週間以上の入院加療を要するもの)が284人(1.7%)、死亡(初診時において死亡が確認されたもの)が163人(1.0%)、その他(医師の診断がないもの)が1人の順となっている。(右図参照)



(4) まとめ

◎ 応急手当普及啓発と救急車の正しい使い方をPR

平成24年中の高槻市における救急活動は、前年と比較すると、出場件数・搬送人員ともに増加となった。

搬送人員を傷病程度別にみると、依然として軽症患者が多く、全搬送人員の64.8%を占めており、全国平均の50.4%(平成23年中)に比べ高い割合を示している。

このことから日常的に、更には「救急の日」等の諸行事、救命講習会・各広報媒体を通じて、応急手当普及啓発と救急車の正しい利用について、市民の方に周知徹底を図る必要がある。

救急概要（対前年比）

区分 事故種別	出場件数(件)			搬送人員(人)			
	24 年	23 年	増 減	24 年	23 年	増 減	
合 計	18,149	17,169	980	16,374	15,510	864	
火 災	64	66	△ 2	19	22	△ 3	
自然災害	1	0	1	0	0	0	
水 難	12	9	3	1	1	0	
交 通	1,668	1,680	△ 12	1,660	1,696	△ 36	
労働災害	109	100	9	105	95	10	
運動競技	115	89	26	119	89	30	
一般負傷	2,721	2,453	268	2,472	2,215	257	
加 害	108	136	△ 28	89	120	△ 31	
自損行為	207	222	△ 15	130	121	9	
急 病	11,488	10,941	547	10,345	9,909	436	
そ の 他	転院搬送	1,438	1,243	195	1,429	1,237	192
	医師搬送	0	0	0	0	0	0
	資器材搬送	0	0	0	0	0	0
	その他	218	230	△ 12	5	5	0

3 救 助

	火災	交通 事故	水難 事故	自然災害 事故	機械に よる事故	建物等に よる事故	ガス及び 酸欠事故	その他	合計
出動件数(件)	6	28	10	0	3	82	0	89	218
活動件数(件)	6	10	8	0	3	61	0	35	123
救助人員(人)	1	11	5	0	6	57	0	17	97

4 その他

(1) 警戒・支援出場等

区分	件数	警戒・支援等の内容
予防出場	28件	火災危険のあるもの（危険物・ガス漏洩等）
誤虚報出場	49件	火災出場したが結果誤虚報であったもの
支援出場	271件	救急等の支援活動
その他出場	338件	上記以外（怪煙調査・エンジンオイル漏洩等）
合計	686件	

(2) 応援出場

応援先	件数	応援出場の内容
茨木市	2件	救急出場
島本町	27件	救急出場（うち特別救急隊出場21件）
枚方市	1件	救助出場（淀川水難救助）
寝屋川市	2件	火災出場（淀川左岸河川敷）・救助出場（淀川水難救助）
京都市	2件	火災出場・救急出場
京都府乙訓郡 大山崎町	1件	救急出場（名神高速道路）
合計	35件	

(3) その他の災害出場

区分	件数	その他の災害の内容
風水害出場	5件	8月14日集中豪雨及び台風17号による風水害等

※ 表中の△印は減少もしくは負数を表す